

未来へ 2022年度卒塾生より

R君は新しい事を学ぶたび、考えていた。「なぜ単子葉類の植物はひげ根を持ち、維管束が並んでいないのか。」「なぜ赤血球は核を持たないのか。」「なぜバスコ・ダ・ガマは航海に出たのか。」「なぜ中東戦争は起こったのか。」……。

暗記をするだけの薄っぺらな勉強には一切興味が持てなかった。理由が知りたい、原理が知りたい、そして深く探求したい。そんな勉強への姿勢は小学生の頃からあった。

中学生になり、教科書の勉強だけでは飽き足らなくなった。数学をもっと体系的に深く学びたくなり、塾は続けながらも河合塾のK会の講座を受講しに、夏休みなどの長期休暇には東京に数日間滞在した。無学年制で受験を最終目標としていないカリキュラムが組まれたトップレベル生対象の講座は、時として大学レベルの内容にまで踏み込む。彼は楽しくて仕方なかった。

R君の探究心は学問だけに留まらなかった。世の中、そして世界にまで視野が広がってきたのである。中2の時、仲間を見つけ、自分の信じる道を歩み始めた。「やさしいせいふく」という、人にも環境にもやさしい服作りを通してよりよい社会の実現を目指す中高生の学生団体のメンバーとなったのである。彼は自分たちが着ている制服がどのように作られているかを勉強していく内に、そこには様々な問題が山積していることを知った。原料の綿花を栽培するインドなどの現地では、大量生産のための大量化学農薬や染色剤使用などによる土壌や水質の汚染が進み、さらに製造時に使用する水や、排出する二酸化炭素の多さ、低賃金で働かされる人たちの劣悪な労働環境が国際的な問題となっている。日本においても安価なファストファッションが主流となり、大量消費に伴う大量廃棄がなされている現状がある。変えていきたいと思った。

全国17人ほどのメンバーとともに、彼はこの問題を人々に知ってもらおうと発信しながら、同時にフェアトレードによるオーガニックコットン100%の服を制作し、販売した。誰も苦しまない労働環境下、地球にも人にも安全な原料と方法で作られた上質な服を長く大切に着てもらう——作る人も着る人も幸せになることを願って今現在も活動している。テレビや新聞など多数のメディアに活動が取り上げられ、メンバーは行政や企業の人たちと意見交換も行っている。「環境、人、地球にやさしい」服作りを入り口に、そんな世の中を実現させるためである。

彼が彼らしく生きていける高校、それは旭丘高校だった。最終内申はオール5、入試当日点は108点である。今も良い未来の実現のため、澄んだ目で世の中を見つめ、たくさんのすばらしい人から刺激を受け、考え、毎日自由に飛び回っている。深い学びに幸せを感じながら。